



2017年5月13日・新潟・初勝利のウイナーズサークル

小島友実の あの馬の STORY



レースジャルダン

グリーンファーム所属、エフザベス女王杯を勝ったドバイーナ・スマートの3番仔として、1歳募集時から注目を集めていたレースジャルダン(父)の母に初めて「ティープインパクト」を叶られた事もあり、早い時期に満口となつたので、期待している会員さんも多いと思います。そんなレースジャルダンが5月13日の新潟戦(芝1800m)で待望の初勝利をマークしました!

「ハサウエーは遅くなつましたが、3戦目で結果を出してくれました。グリーンファームさんの代表馬であるクィーンズペイメントの子供ですかね。まずは勝たせる事が出来ました」と。

この語るのはレースジャルダンを管理する高柳瑞樹調教師です。デビューが今年4月と遅くなつたのは、「馬の成長に合わせていたいの時期になつた」の事で特に大きな怪我などがあった訳ではありませんでした。それでも昨年12月頃に入厩してきた頃は、まだ若さがあつたと高柳師は振り返ります。

「当初は体に若さが残つてしまつたね。でも背中は良いかなり素質は當時つだなど感じてしました。ただハミを取つて走らないとか、気持ちは入つていなくて、調教の本数はこなしていただけで、動きはもつ少しの仕上がり過程。だから新馬戦の時はあまり自信がなかつたですね」

そんな状況下で今年2月の東京戦(芝1800m)でデビューしたレースジャルダン。結果は8番人気での着でした。

「バターダッシュがつかず、中国を逃

走。直線に入つた山元景騎手に追われるところ、残り100mから反応しました。それもタイム差なしの着です。この結果は予想外でしたね。ですが血統馬だなと思いました」

短期放牧を挟み、2戦目も東京の芝1800m戦に出走。3着だったものの、ゲートは進歩が見られました。「ゲートでのゲート練習ではアドバイスより出るより立派な馬なので、期待してたが、これが思以上にスタートが良化して好位の3番手に行けました。ただ結果論ですが、差しが決まる馬場だったのでもう一段後の走りのレースでも良かったのかもしれません」

3戦目は東京か、新潟か、どの条件に行こうか迷つたのですが、「この馬の持ち味が一番出せる」と師が判断した新潟競馬場の外回りの1800m戦に向かつて、見事に初勝利を手にしたのです。

「スタートして少し頭を上げる所があつたのがすぐには折り合ひ、直線は外から伸びて快勝。まだ少しもたれるような面もあつたので、今後、さらに良化する余地を感じさせる勝ち方でした。今後、末勝利戦はほんじにサバイバル戦となるので勝て本当に良かったです」

初勝利後は疲れが出て放牧に出たため、6月中旬に高柳厩舎へ行った際、レースジャルダンは馬房にいるませんでしたが、2戦目からの担当する竹澤耕平持ち乗り調教助手にお話を聞く事が出来まし

た。

「ペナルティでも落わ着いて、調教で速いところをやりたいから、反応がいい結果は予想外でしたね。ですが、馬鹿でもコースでも大人しい。扱いやうじ馬ですよ。飼葉は2戦目の頃に出ぐねば、戦前の前はむづつ食べられるようになりました。とは言ひてもガシツ食べる方ではないので、飼葉桶を二回分くらい少しがくらぬなり。考え方を工夫してます。その効果が出てきてる感じですね」

いつもお母さんとのクィーンズペイメントも着段から大人しい馬でした。レースジャルダンのこの3戦の馬体重は母の現役時ほぼ同じ450kg台で推移してます。やはり親子は似めのだなと感しました。

高柳調教師に今後に向け伺いました。

「8月13日の牝馬限定の新潟芝1800m戦で復帰予定。勝てれば、秋華賞のトライアルへ行けると思います。春のクイーンズ杯は間に合わなかつたので、秋に向けて夢のお結果を出して行けるか、頑張ります。ハイド産駒らしい瞬発力があり、最後は必ず伸びてくれる所がこの馬の長所です。もう少し馬体全体がしっかりしてきてくれないと、ですが、母が5歳でG1を勝つまつた、レースジャルダンの完成度もまだ先でしょ。ですから今年に限らず、今後も楽しみな馬ですよ。応援して下さい」

「ハサウエー語で、女王の庭の意味を持つレースジャルダン。母のよろこび女王の座へつづく馬で、聞けば続編あります。

profile

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜19:00~20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンには馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。